

人生儀礼と祭り

祭りは神さまとの出合いの場

日本人は物事の節目ごとに神社にお参りしたり、我が家に神さまを迎えておまつりする、そんな生活を大切に繰り返してきました。子どもたちの健やかな成長を祈る初宮詣や七五三詣、結婚式、厄除など、人生の節目におこなう祭りを人生儀礼と称しています。日本人にもっとも身近な神さまとの出合いの場、そんな人生の祭り―人生儀礼―を紹介しましょう。



初宮詣

子宝は神さまの恵みによって授けられるもの。赤ちゃんが誕生して七日目の「お七夜」に赤ちゃんの名付けをするのが一般的です。赤ちゃんの名前を神さまに奉告するために命名書を神棚の脇に貼っておくのも習わしです。赤ちゃんが初めて氏神さまにお参りするのが初宮詣（お宮参り）。誕生後、三十日から百日前後に母方から贈られた晴れ着（祝着）をつけてお参りし、健やかな成長と幸せを祈ります。



七五三詣

子どもの成長を感謝し、これからの無事を祈って氏神さまにお参りするのが七五三詣です。三歳は「髪置」と呼ぶ男女とものお祝い、五歳は男子の「袴着」、七歳は女子の「帯解り」のお祝いとされています。一般には稲の刈り取りを終わった十二月十五日前後にお参りますが、雪の降る地方では、一カ月早めておこなうところもあります。

成人式

昔、公家や武家では「元服」といって、成人になったことを祝い初めて冠をつける儀式がありました。今では、二十歳になった男女が大人として社会に認められ、祝福をうける日として成人の日があります。神社でも成人祭がおこなわれます。無事に大人の仲間入りができたことを氏神さまに奉告しましょう。



入学・卒業の奉告

神々の御加護で実力が十分発揮できますように―受験シーズンになると、天神さまをはじめ各地の神社に多くの受験生がお参りする姿が見られます。神前で心を静め、ものごとくに臨むのは大切なことです。入学や卒業の際にも、氏神さまに参拝して、そのことを必ず奉告しましょう。

厄除

人生は山あり谷あり。古くから人々は、特に気をつけなければならぬ年回りを「厄年」と呼んできました。一般に男性は数え二十五歳、四十二歳。女性は数え十九歳、三十三歳が「厄年」にあたります。中でも男性の四十二歳、女性の三十三歳は万事を慎むべき「大厄」とされます。この年齢は現代でも人生の大きな転機を迎える年回りで、神社でお祓いを受け、神々の御加護で無事に過ごせるように祈りましょう。



結婚式

伊弉諾尊、伊弉冉尊の二神の夫婦の道に倣った厳肅な人生の門出が結婚式です。神さまのほからいによって、ひとつの縁が結ばれたことを感謝するとともに、お互いに尊敬し合いながら長い人生を歩み、子孫の繁栄をはかっていくことを神前に誓います。